

資料2

人口ビジョン(案)の主な変更箇所【第4回朝倉市地方創生会議(12/24)後】

変更前	変更後
<b>I. 人口ビジョンの位置づけ</b>	
<p>P.1 我が国の人口は、2008年(平成20年)をピークに減少に転じ、2053年(令和35年)頃には1億人を切ると予測されています。</p> <p>さらに、人口減少ばかりでなく、人口構造も大きく変化しています。未婚化、晩婚化等による出生数の減少と、平均寿命の延伸による高齢者の増加により、世界でも類を見ない速さで少子高齢化が進行しています。こうした背景により、我が国の人口動態統計概要による2018年(平成30年)の出生数は92万1千人となっており、約50年後には、出生数は現在の半分となることを見込まれています。</p> <p>また、65歳以上の高齢者については、2018年(平成30年)の高齢化率は28.1%で、4人に1人が65歳以上となっていますが、その後高齢化は急速に進み、約50年後には、38.4%で、2.6人に1人が65歳以上になると見込まれています。</p> <p><u>急激な人口減少・少子高齢社会が進行するなか、国においては、2014年(平成26年)11月に「まち・ひと・しごと創生法」を施行し、同年12月には、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと総合戦略」が策定され、今後の「地方創生」の方向性が示されました。</u></p> <p><u>朝倉市人口ビジョンは、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を勘案し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すものです。</u></p>	<p>P.1 我が国の人口は、2008年(平成20年)をピークに減少に転じ、2053年(令和35年)頃には1億人を切ると予測されています。</p> <p>さらに、人口減少ばかりでなく、人口構造も大きく変化しています。未婚化、晩婚化等による出生数の減少と、平均寿命の延伸による高齢者の増加により、世界でも類を見ない速さで少子高齢化が進行しています。こうした背景により、我が国の人口動態統計概要による2018年(平成30年)の出生数は92万1千人となっており、約50年後には、出生数は現在の半分となることを見込まれています。</p> <p>また、65歳以上の高齢者については、2018年(平成30年)の高齢化率は28.1%で、4人に1人が65歳以上となっていますが、その後高齢化は急速に進み、約50年後には、38.4%で、2.6人に1人が65歳以上になると見込まれています。</p> <p><u>急激な人口減少・少子高齢社会が進行するなか、国においては、2014年(平成26年)に「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」(以下「長期ビジョン」)が策定されましたが、令和元年12月に改定され、新たな長期的展望等が示されました。</u></p> <p><u>朝倉市では、2010年(平成22年)国勢調査及び2013年(平成25年)日本の将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」))の結果を基として2015年(平成27年)に人口ビジョンを策定しましたが、その後公表された2015年(平成27年)国勢調査の結果が推計値を1,000人以上下回り、大きな乖離があったため見直す(時点修正)こととしました。今回改めて策定する「朝倉市人口ビジョン」は、長期ビジョンを勘案し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すものです。</u></p>